

# 後発地震注意情報を受けて とるべき行動のポイント

## — 前回<sup>①</sup>の後発地震注意情報に関する 住民対応調査にみる課題を受けて —

東北大学災害科学国際研究所 佐藤翔輔, 新家杏奈, 今村文彦

協働調査機関: 宮城県防災推進課 / 株式会社サーベイリサーチセンター

2026年4月20日三陸沖の地震・津波に関する速報会

2026年4月23日 @オンライン

## 全国調査(4/22公開)

## 宮城県調査(3/18公開)

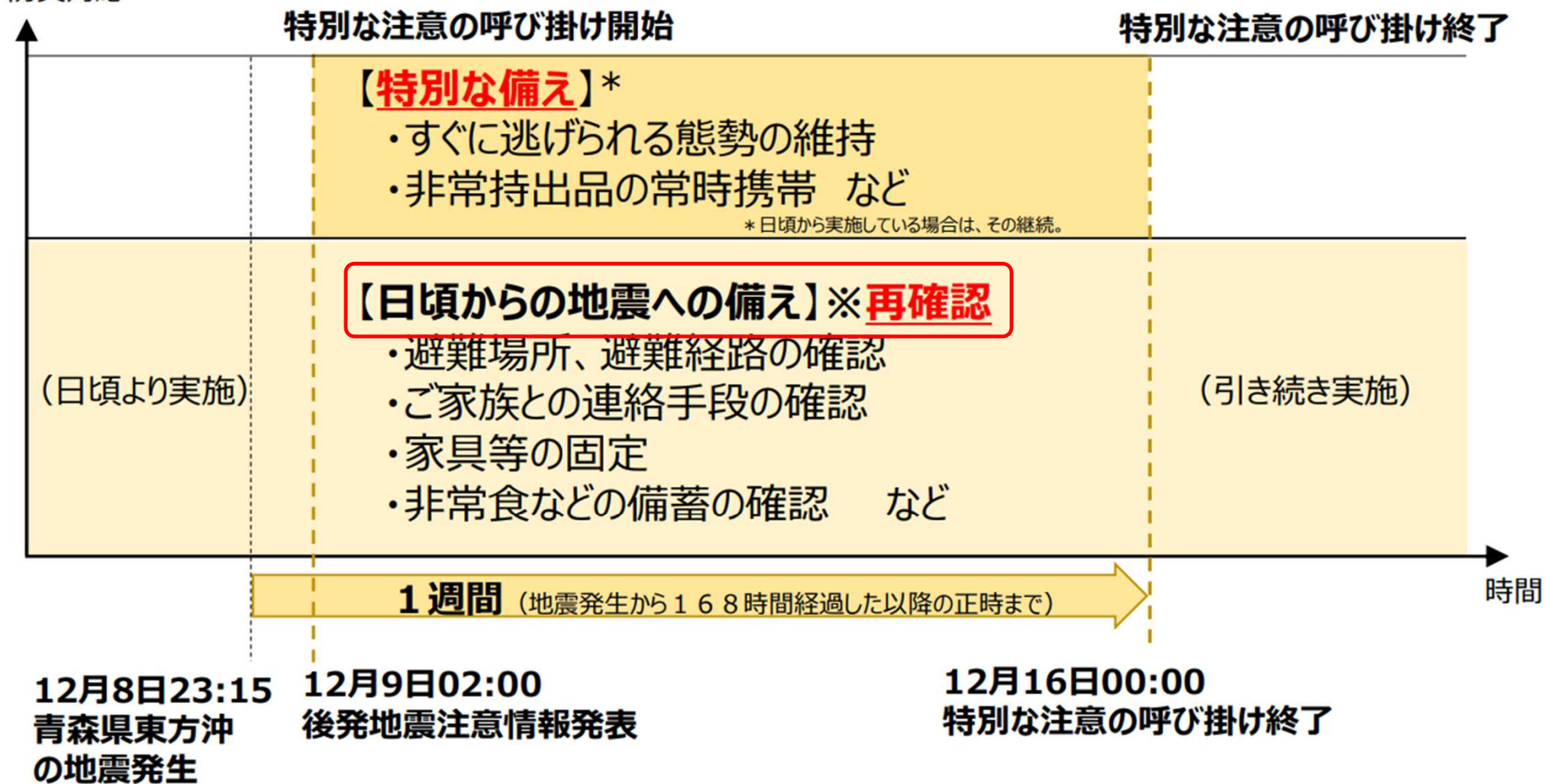
調査主体	東北大学災害科学国際研究所 株式会社サーベイリサーチセンター	宮城県 東北大学災害科学国際研究所
対象地域	注意情報の発信に伴い防災対応をとるべき 全地域(北海道～千葉県), 182市町村	宮城県のみ, 35市町村
調査方法	インターネット調査 (ネットリサーチモニターに対するクローズド 調査)	アンケートアプリ※調査 (※デジタル身分証アプリ「ポケットサイン」内の ミニアプリ)
配布期間	2026/03/05～10	2026/01/13～25
回収数	12,754	8,892
特徴	道県ごとの差・傾向をとらえる	回答者の居住地を踏まえた浸水想定範囲内外 を精緻に分析できる

## 全国調査(4/22公開)

## 宮城県調査(3/18公開)

調査主体	東北大学災害科学国際研究所 株式会社サーベイリサーチセンター	宮城県 東北大学災害科学国際研究所
対象地域	注意情報の発信に伴い防災対応をとるべき 全地域(北海道～千葉県), 182市町村	宮城県のみ, 35市町村
調査方法	インターネット調査 (ネットリサーチモニターに対するクローズド 調査)	アンケートアプリ※調査 (※デジタル身分証アプリ「ポケットサイン」内の ミニアプリ)
配布期間	2026/03/05～10	2026/01/13～25
回収数	12,754	8,892
特徴	道県ごとの差・傾向をとらえる	回答者の居住地を踏まえた浸水想定範囲内外 を精緻に分析できる

防災対応



## 防災対応（住民） ～日頃からの地震の備え～

- 情報が発表された際に、慌てず防災行動をとるためには、日頃からの地震への備えが大切です。下記のような備えは日頃から行い、情報が発表された際に再確認することが重要です。
- このような備えをすることで、強い揺れや津波等から命を守ることに繋がる他、地震発生後の避難生活の備えとなります。

### 迅速な避難体制・準備

- ✓ 地域のハザードマップでどのような危険があるかを確認する
- ✓ 安全な避難場所・避難経路等を確認する
- ✓ 家族との連絡手段を決めておく
- ✓ 非常持出品を準備しておく

- ・食料、水、常備薬
- ・懐中電灯、携帯ラジオ
- ・身分証明書、貴重品 等



### 出火や延焼の防止対策

- ✓ 火災警報器の電池切れがないことを確認する
- ✓ 漏電遮断機や感震ブレーカー等を設置する



### 室内の対策

- ✓ 窓ガラスの飛散防止対策をする
- ✓ タンス類・本棚の転倒防止対策をする

### 地震発生後の避難生活の備え

- ✓ 水や食料の備蓄を多めに確保する
- ✓ 簡易トイレを用意する
- ✓ 携帯ラジオや携帯電話の予備バッテリー等を準備する



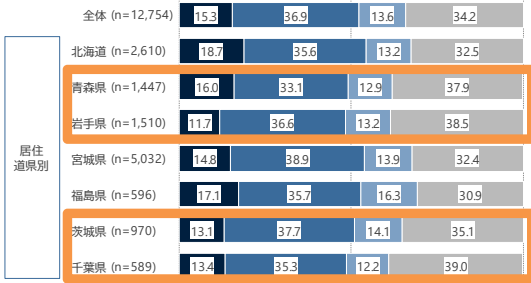
## 日頃からの地震への備えの再確認項目（12項目）

内閣府・気象庁記者会見  
(2025年12月9日)より

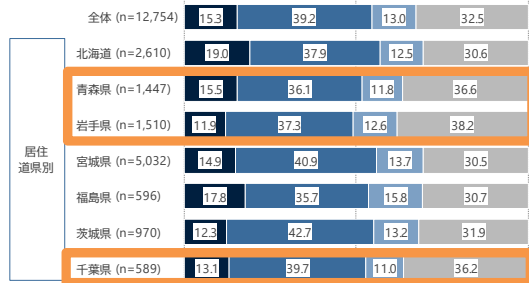
- 地震前に準備済みで、注意情報を受けて再確認した
- 地震前準備済みで、特に何もしていない
- 地震前には準備しておらず、注意情報を受けて新たに準備した
- 地震前も今も、していない：1回目発表以降、未実施

# 未実施が全国を上回る道県

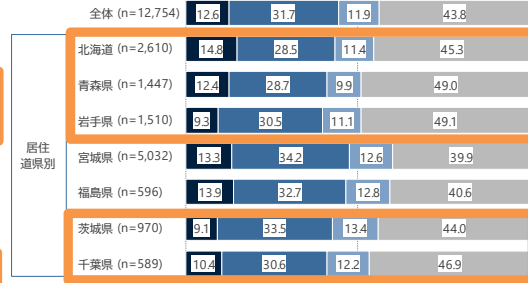
## ハザードマップで危険な場所を確認する



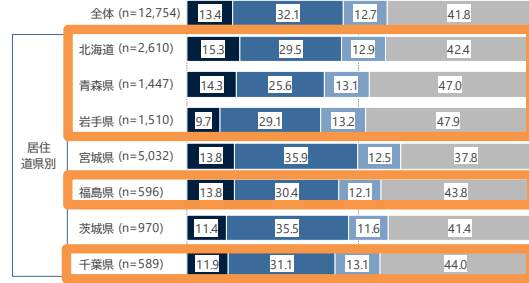
## 家族や知人等との連絡手段を決めておく



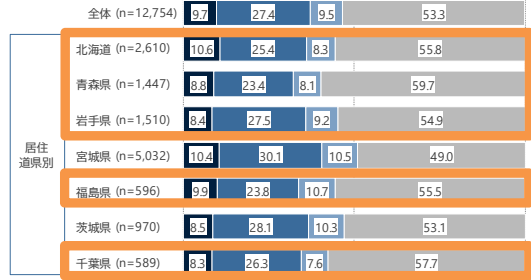
## 安全な避難場所・避難経路等を確認する



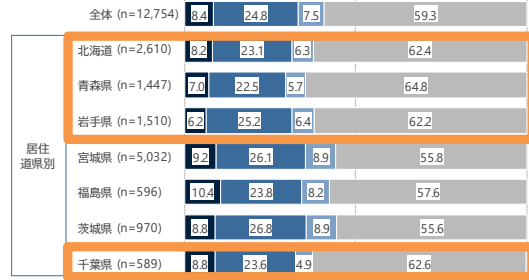
## 非常持出品を準備しておく



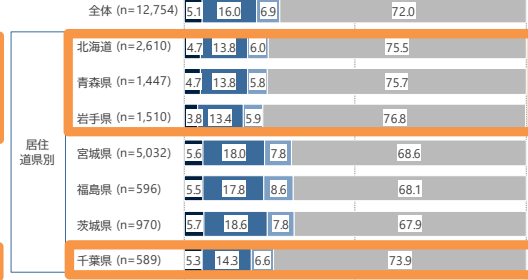
## 火災報知器の電池切れがないことを確認する



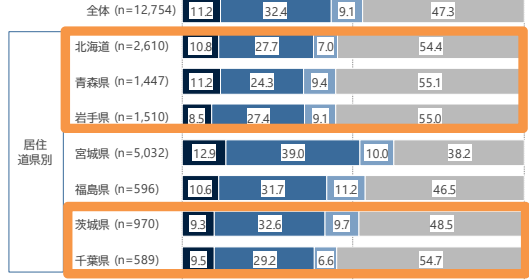
## 漏電遮断器や感震ブレーカー等を設置する



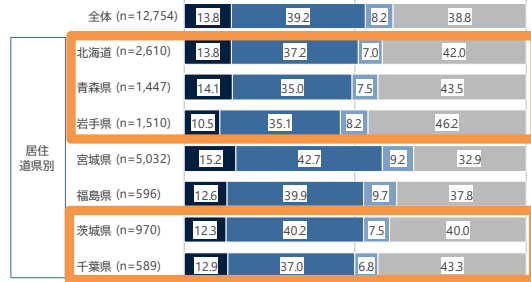
## 窓ガラスの飛散防止対策をする



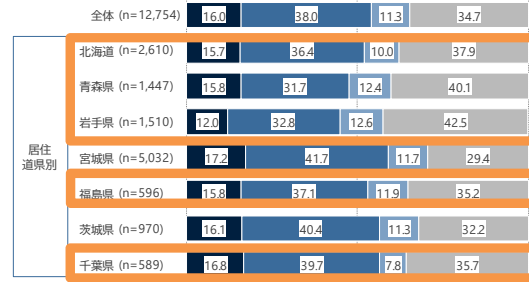
## タンス類・本棚の転倒防止対策をする



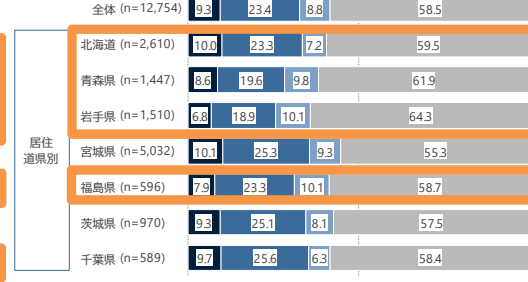
## ベッドや布団の頭上に物を置かない



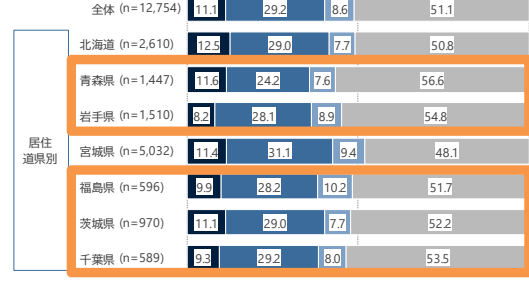
## 水や食料などの備蓄を準備・追加する



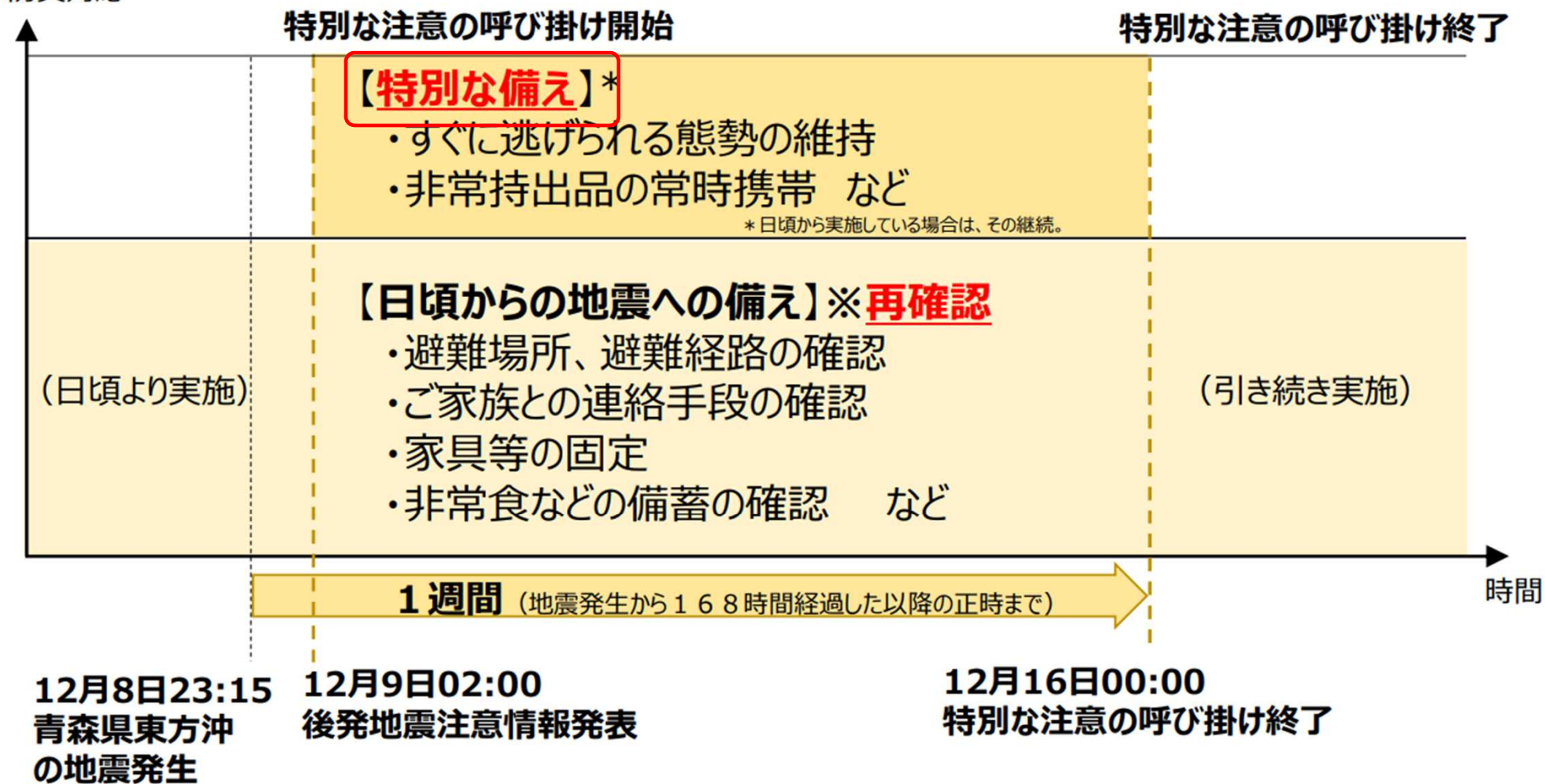
## 簡易トイレを用意する



## 予備バッテリー等を準備する



防災対応



## 防災対応（住民）

- ・ 次の地震により揺れを感じたり津波警報等が発表されたら、直ちに避難することが重要です。
- ・ 地震への備えとして、以下の事項を実施してください。

### 日頃からの地震への備え

外出先でも

- 安全な避難場所・避難経路の確認、ご家族との連絡手段の確認、家具の固定、非常食などの備蓄の確認 など



日頃からの地震への備えの再確認

就寝中でも

### 後発地震注意情報の発表に伴う特別な備え

- 昼夜問わず津波警報等が発表されても速やかに避難し命を守ることができるよう、すぐに逃げられる態勢の維持や非常持出品の常時携帯 など

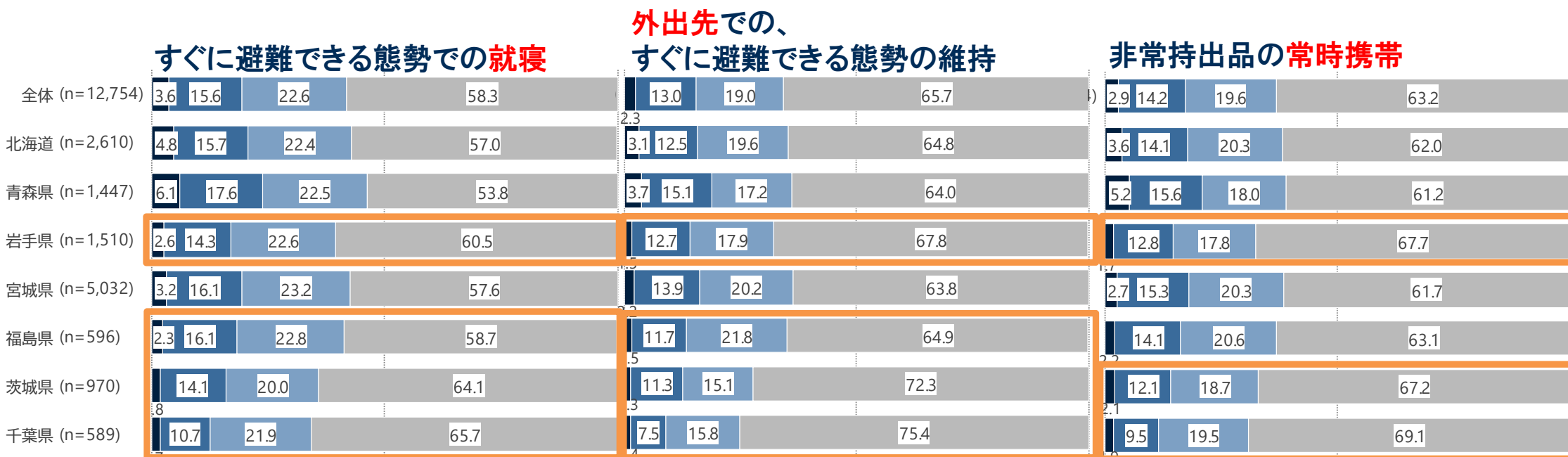


## 特別な備え (3項目)

内閣府・気象庁記者会見  
(2025年12月9日)より

# 未実施が全国を上回る道県

- 1週間毎日実施した
- おおむね実施した
- 少し実施した
- していなかった  
:1回目発表以降, 未実施



## 全国調査(4/22公開)

## 宮城県調査(3/18公開)

調査主体

東北大学災害科学国際研究所  
株式会社サーベイリサーチセンター

**宮城県**  
東北大学災害科学国際研究所

対象地域

注意情報の発信に伴い防災対応をとるべき  
全地域(北海道～千葉県), 182市町村

宮城県のみ, 35市町村

調査方法

インターネット調査  
(ネットリサーチモニターに対するクローズド  
調査)

アンケートアプリ※調査  
(※デジタル身分証アプリ「ポケットサイン」内の  
ミニアプリ)

配布期間

2026/03/05～10

2026/01/13～25

回収数

12,754

8,892

特徴

道県ごとの差・傾向をとらえる

回答者の居住地を踏まえた**浸水想定範囲内外**  
を**精緻に分析**できる

# 日頃からの地震への備えの再確認項目 (12項目)

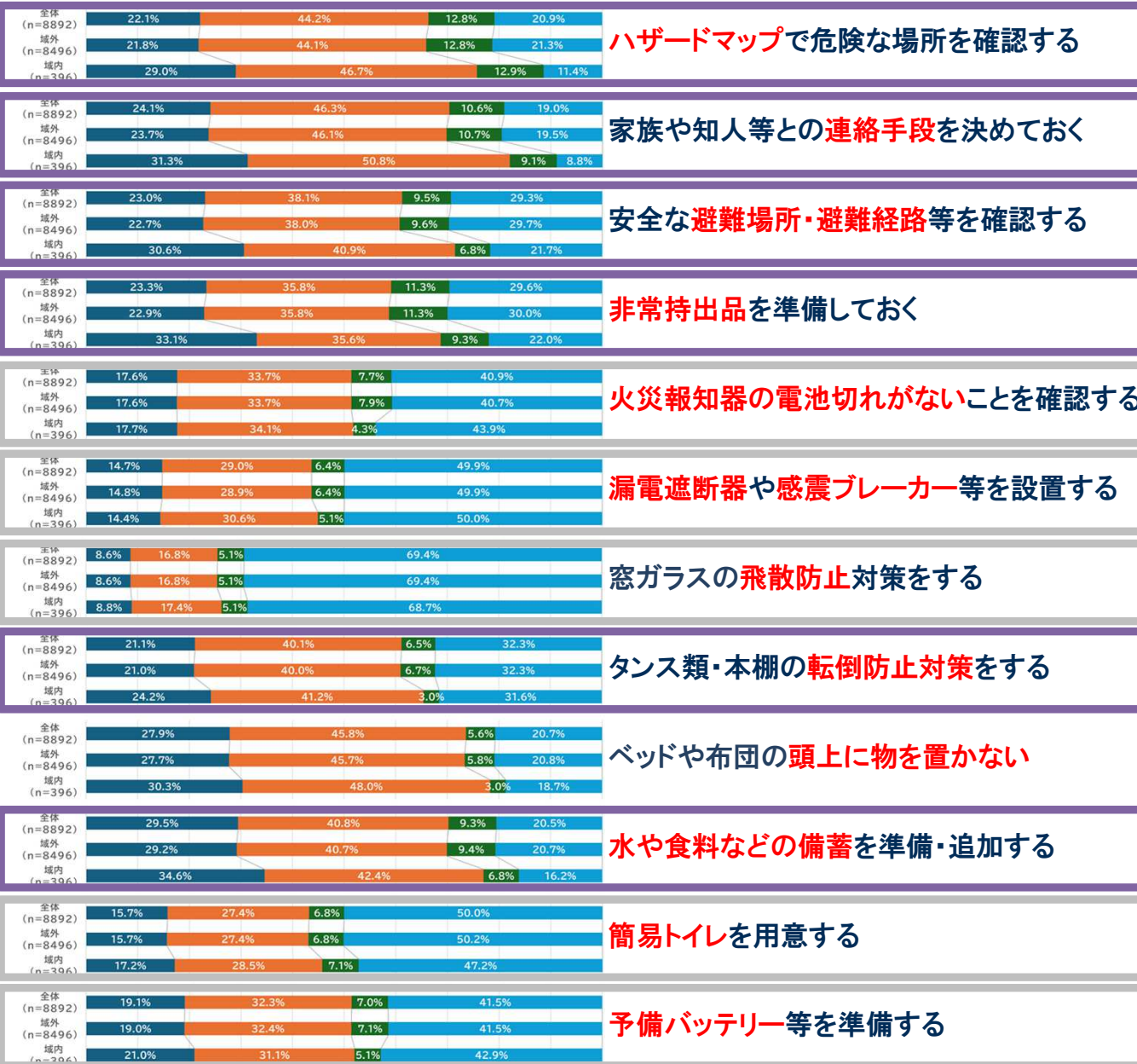
- 地震前に準備済みで、注意情報を受けて再確認した
- 地震前に準備済みで、特に何もしていない
- 地震前には準備しておらず、注意情報を受けて新たに準備した
- 地震前も今も、していない

## 実施率が低い下位5項目

※全国調査でも同様

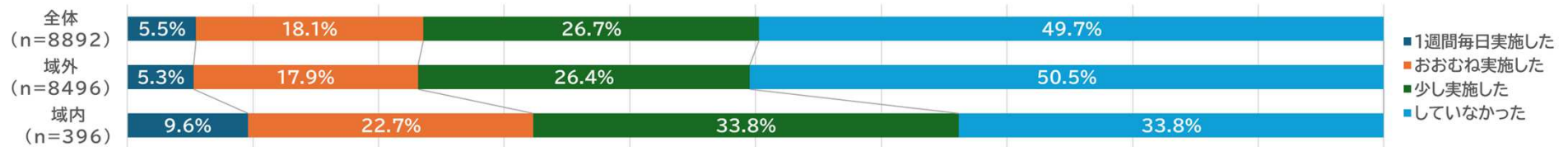
実施率：  
浸水想定範囲内 > 外

新家杏奈, 佐藤翔輔, 今村文彦(投稿中): 北海道・三陸沖後発地震注意情報の初回発表に対する住民対応の分析— 宮城県における津波浸水想定域内外の比較 —, 自然災害科学

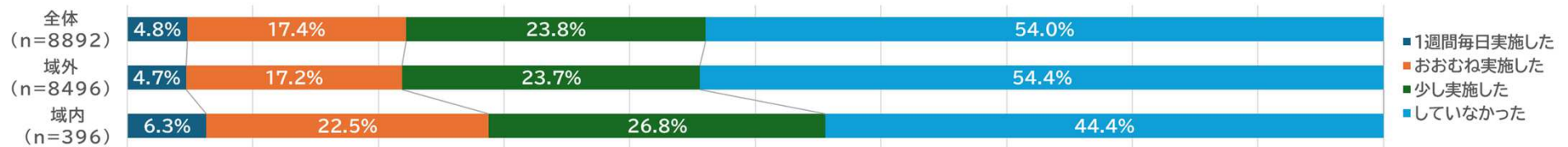


# 特別な備え(3項目)

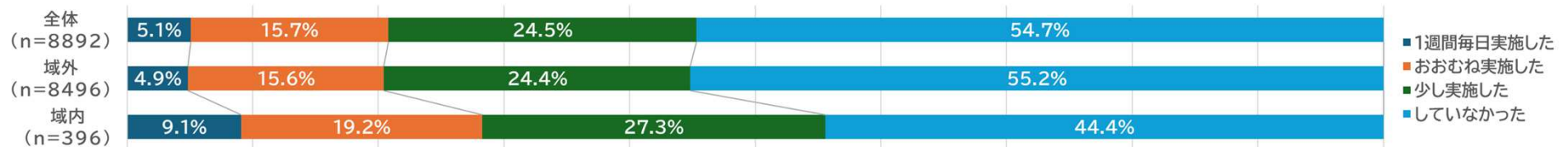
## すぐに避難できる態勢での就寝



## 外出先での、すぐに避難できる態勢の維持



## 非常持出品の常時携帯



すべての項目：浸水想定範囲内 > 外

いずれも1週間継続している割合が、かなり低い(※全国調査でも同様)

# 注意情報を受けての旅行・イベントへの対応

(単一回答)



- 前回(2025年12月)は連休にかかっていなかったこともあり、もともと特に予定がなかった割合は半分以上。一方で、今回(2026年4月)は**連休にかかる**(4/27 17:00まで)
  - 今回、前回よりも予定ありの人が**多い可能性**
- 前回は、10%弱の人が自主的な判断で中止・延期とした

# 前回(2025年12月)の注意情報での実態・課題を受けて 今回(2026年4月)の**とるべき行動ポイント**(まとめ)

- 日頃からの地震への備えの再確認項目(12項目)
  - より実施は必要な項目:窓ガラスの**飛散防止**, **簡易トイレ**の確保, **漏電遮断器**・**感震ブレーカー**の設置, **予備バッテリー**の確保, **火災報知器**の確認(いずれも揺れ・火災に対する対策)
  - 特に実施に力をいれるべき地域:青森, 岩手, 千葉, 北海道
- 特別な備え(3項目):**就寝中**・**外出中のすぐに避難できる態勢の維持**, **非常持出し品の携帯**
  - 日頃からの備えに比べて**全国的に実施率がかなり低い**. **今回, 要改善**
    - “1週間”程度実施していた人は**わずか**
  - 特に実施に力をいれるべき地域:**千葉, 茨城, 岩手, 福島**
- 連休に向けて
  - 旅行や帰省を中止する“**必要はない**”
    - 「いつ地震・津波が起こるか分からない」のは普段と同じ
  - 旅行や帰省する際は, 行き先で**普段の備え+ $\alpha$** を(佐藤ら, 2024)
    - 旅行・帰省先の想定災害や影響範囲を確認しておく(荷造り中, 向かう途中のちょっとした隙間時間でも)
    - 旅行・帰省先での避難の判断基準や避難場所を決めておく.
    - 現地で情報を得るための手段を追加する(旅行・帰省先の自治体SNSの登録等)

# 調査の詳細は以下を参照ください

(引用等においては調査主体, 出典を明記ください. 特に申請等は必要ありません)

## 全国調査

北海道・三陸沖後発地震注意情報に関する調査(2025年12月8日  
青森県東方沖を震源とする地震), 東北大学災害科学国際研究所,  
株式会社サーベイリサーチセンター

<https://www.surece.co.jp/research/5811/>

## 宮城県調査

北海道・三陸沖後発地震注意情報に関する東北大学(災害科学国際研究所)との協働調査, 宮城県防災推進課, 東北大学災害科学国際研究所

[https://www.pref.miyagi.jp/documents/62861/kouhatsu\\_kekka.pdf](https://www.pref.miyagi.jp/documents/62861/kouhatsu_kekka.pdf)